

今月のトピックス 「ハスモンヨトウについて」

1) 幼虫の見分け方

ハスモンヨトウの幼虫は白っぽい個体(図 1 右)から、模様のはっきりした個体(同左)、ほとんど黒に近い個体がいます。しかし 2 齢以降になると、必ず頭の後方に周囲の模様より濃いシミのような 1 対の黒斑(矢印)が現れるので、他の幼虫から区別できます。



図 1 サトイモでの幼虫

2) 発生消長と被害の関係

前年の発生状況に関係なく、初期の密度はとて低く、盛夏がすぎる頃からようやく目立つようになります(図 2 は 2007 年の例)。

被害が出るのは主に 9~10 月です。8 月から実害がみられるような年にはその後も多発に注意しなければなりません。

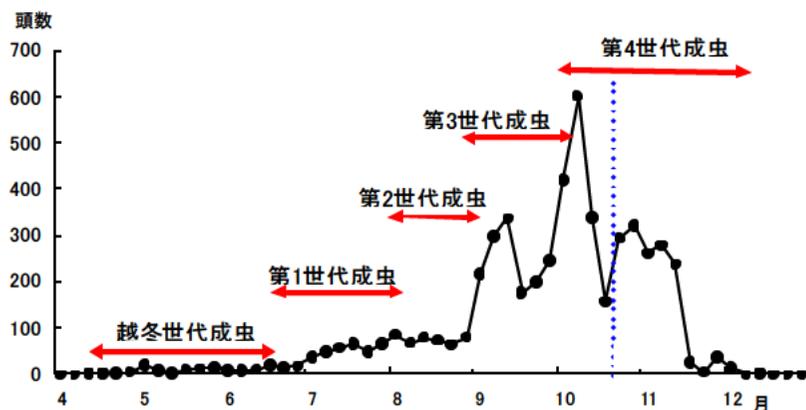


図 2 フェロモントラップでの雄成虫の誘殺数(松阪市・2007 年)

図 2 フェロモントラップでの雄成虫の誘殺数(松阪市・2007 年)

ダイズ等でみられる白変葉(図 3)は集団の若齢幼虫による加害です。その後、大きくなった幼虫は周辺に分散します。

白変葉がドンドン増加し始める頃(普通は 9 月から)が防除時期の目安です。

10 月中下旬(図 2 の点線)以後は成虫がどれだけ多くなっても、露地ではその成虫の産卵による幼虫はまだ小さいうちに寒さによって全滅します。



図 3 ダイズでの白変葉

3) フェロモン剤の利用

大量誘殺用(図 4 左)と交信かく乱用の 2 種の製剤は防除に使われます。これとは別に、調査機関が発生予察用(同右)に使う製剤があります。

発生予察用のトラップは、図 2 のようなグラフを書いて、平年と比較し、防除要否や防除適期を判断するためのものです。本年の様子は、病害虫防除所ホームページのグラフ(下記アドレス)をご覧ください。

<http://www.mate.prefmie.jp/boiyosyo/tyosayasai/f-hasumon.htm>

防除用のトラップであっても、1 週間ごとに頭数を記録すると、発生活消長がわ



図 4 フェロモントラップ

平成 20 年度予報第 5 号(8/28)

かり、その地域の防除時期の参考になるかもしれません。